



森本あんり 教授



## 森本あんり教授 略歴・業績

(CV and List of Works of Prof. Anri Morimoto)

### 略歴 (CV)

#### 生年月日 (Date of Birth)

1956年10月19日

#### 学歴 (Degrees)

国際基督教大学 教養学部 人文科学科 (1975-1979), B. A.

東京神学大学大学院 神学研究科 修士課程 (1979-1982), Th. M.

Princeton Theological Seminary, Systematic Theology (1986-1991), Ph. D.

#### 職歴 (Professional Experience)

日本基督教団 松山城東教会担任教師 (1982-1986)

国際基督教大学 大学牧師・同大学教会牧師 (1991-2002)

宗務部長 (1992-2001)

人文科学科 準教授 (1997-2001)

人文科学科 教授 (2001-2022)

キリスト教と文化研究所長 (2005-2012)

哲学・宗教学デパートメント長 (2008-2009)

ロータリー平和センター長 (2011-2012)

学務副学長 (2012-2020)

湯浅八郎記念館長 (2012-2020)

Princeton Theological Seminary, Visiting Professor (2002-2003)

Berkeley Graduate Theological Union, Visiting Professor (2010)

Edinburgh University, Department of Theology, Visiting Scholar (2009)

**所属学会，学会役職等 (Academic Societies, Positions and etc.)**

日本基督教学会 理事 (2006-), 学会誌編集委員長 (2010-2014)

日本ピューリタニズム学会 常任理事, 会長 (2015-2017)

アメリカ学会 学会誌編集委員 (2002-2008), 常務理事 (2008-2013),  
監事 (2018-)

日本宗教学会 評議員 (2013-)

*Jonathan Edwards Studies* (Yale University Press) Editorial Board (2011-)

*Asian Christian Review* Editorial Board (2007-)

United Board for Christian Higher Education in Asia (UBCHEA) Board  
of Trustees Member (2015-)

**業績 (List of Works)**

**博士論文 (Ph.D. Dissertation)**

“The Reality of Salvation in the Soteriology of Jonathan Edwards,”  
Princeton Theological Seminary, 1991.

**著作 (Books)**

『使徒信条——エキュメニカルなシンボルをめぐる神学黙想』新教出版社,  
1995.

『ジョナサン・エドワーズ研究——アメリカ・ピューリタニズムの存在  
論と救済論』創文社, 1995.

*Jonathan Edwards and the Catholic Vision of Salvation*, Pennsylvania State  
University Press, 1995.

『現代に語りかけるキリスト教』日本基督教団出版局, 1998.

『アジア神学講義——グローバル化するコンテクストの神学』創文社,

2004.

『アメリカ・キリスト教史——理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社, 2006.

『アメリカ的理念の身体——寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史の実験の軌跡』創文社, 2012.

『反知性主義——アメリカが生んだ「熱病」の正体』新潮社, 2015.

『宗教国家アメリカのふしぎな論理』NHK出版, 2017.

『異端の時代——正統のかたちを求めて』岩波新書, 2018.

『キリスト教でたどるアメリカ史』角川ソフィア文庫, 2019.

『不寛容論——アメリカが生んだ「共存」の哲学』新潮選書, 2020.

#### 編著 (Books Edited or Co-Edited)

『人間に固有なものとは何か——人文科学をめぐる連続講演 (コラボレーション)』創文社, 2011.

*Asian and Oceanic Christianities in Conversation: Exploring Theological Identities at Home and in Diaspora* (Studies in World Christianity & Interreligious Relations), With Heup Young Kim and Fumitaka Matsuoka, eds., (Editions Rodopi B.V., 2011).

『原罪論』(ジョナサン・エドワーズ選集3) 大久保正健訳, 新教出版社, 2015.

『自由意志論』(ジョナサン・エドワーズ選集1) 柴田ひさ子訳, 新教出版社, 2016.

#### 共著 (Selected Chapter Contributions)

『現代アメリカの組織神学』野呂芳男・熊沢義宣編『総説現代神学』(1995): 100-117.

“The Seventeenth-Century Ecumenical Interchanges,” Shin Chiba, George R. Hunsberger and Lester Edwin J. Ruiz, eds., *Christian Ethics in Ecumenical Context: Theology, Culture, and Politics in Dialogue*

(1995) Chapter 6: 86-102.

「ニューイングランド・ピューリタニズムの大学観」並木浩一・倉松功  
編『知と信と大学』(1996): 191-219.

「明治キリスト教と進化論」松下均編『異文化交流と近代化——京都国際  
セミナー1996』(1998): 38-43.

「神の存在と創造の神的根拠の理解をめぐる——ティリッヒ・バル  
ト・モルトマン・トマス・エドワーズ」『パウル・ティリッヒ研究』  
(1999): 199-230.

「性と結婚の歴史」関根清三編『講座・現代キリスト教倫理』2 (1999):  
50-71, 第2版 (2001).

“Understanding the People of Other Faiths: Conviviality among Religions,”  
Yoichiro Murakami, Noriko Kawamura, and Shin Chiba, eds.,  
*Toward a Peaceable Future: Redefining Peace, Security, and Kyosei from a  
Multidisciplinary Perspective* (2005) Chapter 15: 179-189.

“Foreword” to Kazoh Kitamori, *Theology of the Pain of God* (John Knox  
Press, 1965; reprint: Wipf and Stock Publishers, 2005), 1-4.

「日本とアジアにおけるキリスト教『伝統』——歴史的存在者の解釈学  
的神学」古屋安雄・倉松功・近藤勝彦・阿久戸光晴編『歴史と神学  
——大木英夫教授喜寿記念献呈論文集・上巻』(2005): 304-337.

「ロジャー・ウィリアムズに見る政教分離論の相克」大西直樹・千葉  
真編『歴史のなかの政教分離——英米におけるその起源と展開』  
(2006) 第2章: 45-71.

「宗教的使命感と理想に燃えるアメリカ」『シリーズ・アメリカ研究の越  
境』1, 上杉忍・巽孝之編『アメリカの文明と自画像』(2006) 第1章:  
17-44.

“Toward a Theology of Reconciliation: Forgiveness from the Perspective  
of Comparative Religion,” Yoichiro Murakami and Thomas J.  
Schoenbaum, eds., *A Grand Design For Peace And Reconciliation:  
Achieving Kyosei in East Asia* (2008) Chapter 10: 159-175.

- 「神学の学問的特質をどこに尋ねるべきか」『神学とキリスト教学——その今日的な可能性を問う』（2009）第5章：133-59.
- 「アメリカの始まり」「アメリカ的伝統の形成」「アメリカ的なキリスト教の進展」「二つの世界大戦とキリスト教」「戦後世界のキリスト教」高柳俊一・松本伸郎編『（宗教の世界史）キリスト教の歴史2——宗教改革以降』（2009）1-4章.
- 「宗教と思想に見るアメリカの自己理解」有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』（2009）第2部3章：204-214.
- 「共生と和解に向けて——「ゆるしの作法」の比較宗教的考察」村上陽一郎・千葉眞編『平和と和解のグランドデザイン——東アジアにおける共生を求めて』（2009）第11章：261-288.
- “The End for Which God Created Jonathan Edwards,” Don Schweitzer, ed., *Jonathan Edwards as Contemporary: Essays in Honor of Sang Hyun Lee* (2010) Chapter 3: 33-47.
- “To Forgive is Human: A Theological Reflection on the Politics of Reconciliation,” Noriko Kawamura, Yoichiro Murakami and Shin Chiba, eds., *Building New Pathways to Peace* (2011) Chapter 2: 32-47.
- 「さまよえる闘士——ロジャー・ウィリアムズ評価の変遷とアメリカの政教分離論」『キリスト教のアメリカ的展開——継承と変容』（2011）第2章：65-84.
- “An Edwardsian Lost and Found: The Legacy of Jonathan Edwards in Asia,” Oliver D. Crisp and Douglas A. Sweeney, eds., *After Jonathan Edwards: The Courses of New England Theology* (2012) Chapter 16: 225-236.
- 「奪格の神学によるアジアのキリスト教史的な再定位」古橋昌尚編『今日のアジアの教会におけるインカルチュレーション』（2014）第1章：11-43.
- 「幸福を追求するアメリカ人——反知性主義と宗教」山崎正和・田所昌幸編『アステイオン創刊30周年ベスト論文選1986-2016, 冷戦後の

- 世界と平成』IV「思想・文学・社会」(2017).
- 「日本語版読者に向けて」トニ・モリスン『「他者」の起源——ノーベル賞作家のハーバード連続講演録』荒このみ訳 (2019): 6-15.
- 「宗教からみたトランプのアメリカ——反知性主義・陰謀論・ポスト真実」矢口祐人編『東大塾 現代アメリカ講義——トランプのアメリカを読む』(2020) 第1講: 3-31.

### 論文 (Papers)

- 「神学的思惟の原理としての神の名——カール・バルトのアンセルムス研究」『神学』44 (1982): 174-204.
- 「救いの適用」『聖書と教会』312 (1992): 14-19.
- 「契約神学研究史」『神学』57 (1995): 183-198.
- “Salvation as Fulfillment of Being: The Soteriology of Jonathan Edwards and its Implication for Christian Mission,” *The Princeton Seminary Bulletin* 20 (1) (1999): 13-23.
- 「ロジャー・ウィリアムズの孤独——規制原理としての分離主義と構成原理としての許容主義」『アメリカ研究』36 (2002): 91-109.
- “The (More or Less) Same Light but from Different Lamps: The Post-Pluralist Understanding of Religion from a Japanese Perspective,” *International Journal for Philosophy of Religion* 53 (2003): 163-180.
- 「ジョナサン・エドワーズとプロテスタント・アメリカの理念」『アメリカ研究』38 (2004): 41-59.
- “Violence as Impetuosity: Taxonomy of Religious Violence,” *Nanzan Review of American Studies* 29 (2007): 51-60.
- “The Forgotten Prophet: Rediscovering Toyohiko Kagawa,” *The Princeton Seminary Bulletin* 28 (3) (2007): 292-308.
- “Contextualised and Cumulative: Tradition, Orthodoxy and Identity from the Perspective of Asian Theology,” *Studies in World Christianity* 15 (1) (2009): 65-80.



- “Forgiving is Fore-Giving: Reaching out for Peace in Interpersonal Relations,” *The Japanese Journal of American Studies* 20 (2009): 193-210.
- 「ニューイングランドのバプテスト——〈ゼクテ〉の位置づけの変遷」『日本の神学』48 (2009): 171-177.
- “Asian Theology in the Ablative Case,” *Studies in World Christianity* 17 (3) (2011): 201-215.
- 「ICT活用による自発的学習者の育成」『大学教育と情報』20 (1) (2011): 19-21.
- 「人はなぜ平等なのか——『良心の自由』に見る神思想のアクチュアリテイ」『理想』688 (2012): 27-39.
- 「ハビット論による実体概念の変革——ジョナサン・エドワーズの哲学と神学」『イギリス哲学研究』36 (2013): 5-16.
- 「ICUの教育組織改革——リベラルアーツにふさわしい制度を」『IDE 現代の高等教育』550 (2013): 45-49.
- 「幸福を追求するアメリカ人——反知性主義と宗教」『アステイオン』79 (2013): 29-42.
- 「有限は無限を容れるか (finitum capax infiniti) ——三書評に答えて」『アメリカ太平洋研究』14 (2014): 154-159.
- 「民主主義と文民統制の反転——世界的危機としてのトランプ大統領」『アジア時報』517 (2016): 2-9.
- “Preface,” *Jonathan Edwards Studies* 6 (2) (2016): 91-92.
- 「ドナルド・トランプの神学——プロテスタント倫理から富の福音へ」『世界』890 (2017): 81-89.
- 「ポピュリズム——民主主義の影」『福音と社会』294/295 (2017): 36-47.
- 「代替宗教としてのポピュリズム」特集「社会思想史における宗教」『社会思想史研究』42 (2018): 20-30.
- 「ピューリタニズムに見る寛容論の内発的変遷と現代イスラーム神学への問いかけ」『ピューリタニズム研究』13 (2019): 13-20.
- 「国際基督教大学 (ICU) の教養教育」『IDE 現代の高等教育』610 (2019):

22-24.

「政治的神話と社会的呪術——なぜ人はファクトよりフェイクに惹きつけられるのか」『世界』929 (2020): 109-117.

“The Passions and the Interests: An Edwardsean Understanding of Populism,” *Jonathan Edwards Studies* 10 (2) (2020): 202-207.

「宣誓と詐欺——真実をめぐるアメリカ的伝統の逆説」[特集1：アメリカとは何か?]『ひらく』5 (2021): 36-43.

### 訳業 (Translations)

ハンフリート・ミュラー『福音主義神学概説』共訳・雨宮栄一, 日本基督教団出版局, 1987 (Hanfried Muller, *Evangelische Dogmatik im Überblick*, 1978).

ゲイヴィン・デコスタ編『キリスト教は他宗教をどう考えるか——ポスト多元主義の宗教と神学』教文館, 1997 (Gavin D'Costa, ed., *Christian Uniqueness Reconsidered: The Myth of a Pluralistic Theology of Religions*, 1990).

ジェフリー・サイカー編『キリスト教は同性愛を受け入れられるか』監訳, 日本基督教団出版局, 2002 (Jeffrey S. Siker, ed., *Homosexuality in the Church: Both Sides of the Debate*, 1994).

エーミル・ブルンナー『出会いとしての真理』共訳・五郎丸仁美, 教文館・国際基督教大学出版局, 2006 (Emil Brunner, *Wahrheit als Begegnung*, 2 Aufl., 1963).

ピーター・L. バーガー『現代人はキリスト教を信じられるか—懐疑と信仰のはざままで』共訳・篠原和子, 教文館, 2009 (Peter L. Berger, *Questions of Faith: A Skeptical Affirmation of Christianity*, 2003).

ジェイムズ・P. バード『はじめてのジョナサン・エドワーズ』教文館, 2011 (James P. Byrd, *Jonathan Edwards for Armchair Theologians*, 2008).

ジェラルディン・ブルックス『ケイレブ——ハーバードのネイティブ・ア

メリカン』監訳・解題, 平凡社, 2018 (Geraldine Brooks, *Caleb's Crossing*, 2011).

### その他の出版物 (Others)

“A Definite and Comprehensive Commentary on Edwards’s Theology,”  
review article on Michael J. McClymond and Gerald R. McDermott,  
*The Theology of Jonathan Edwards* (2012), *Evangelical Studies Bulletin*,  
Issue 83 (2012): 6-11.

「〈対談〉大学の教養教育を考える [Part II] 森本あんり, 杉万俊夫, 瀬戸  
口浩彰」『人環フォーラム』33 (2013): 2-17.

「自由・正統・権威——ピューリタニズムの伝統から現代日本が学び得  
ること」(学会創立10周年特別記念講演)『ピューリタニズム研究』  
10 (2016): 2-11.

「基調講演 大学生の学びとこれからの教養教育」『大学教育学会誌』39  
(1) (2017): 2-9.

「トランプ政権下のアメリカ合衆国」久保文明・巽孝之との鼎談(司会:  
中野勝郎)『アメリカ研究』52 (2018): 1-39.

「第1部 基調講演 第1講演 ハーシュマンからチキンマンへ——移動の自  
由とポピュリズム」『地域研究ジャーナル』29 (2019): 6-16. 第2部 パ  
ネルディスカッション「ポピュリズム化の時代にどう向き合うか」:  
同44-59.

「第八回丸山眞男記念比較思想研究センター公開研究会 L正統とO正統  
——キリスト教史からの批判的検証」『丸山眞男記念比較思想研究  
センター報告』15 (2020): 41-51. 「『丸山眞男集 別集』第4巻 合評会  
質疑応答」: 同70-77.

### 外部資金取得 (External Grants)

科学研究費助成事業「アメリカ独立革命にいたる英米の政教分離に関す  
る研究」基盤研究 (B) 一般, 研究分担者 (1999-2001)

科学研究費助成事業「アメリカ合衆国憲法と政教分離に関する研究」基盤研究 (B) 一般, 研究分担者 (2005-2008)

科学研究費助成事業「現代アメリカ・ナショナリズムの複合的編制をめぐる学際的研究」基盤研究 (A) 一般, 研究分担者 (2007-2011)

研究成果公開促進費 (学術出版)『アメリカの理念の身体——寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史的实验の軌跡』特別研究促進費 (2012-2013)

科学研究費助成事業「ジョナサン・エドワーズ研究の国内拠点設置とその初期運営」基盤研究 (C) 一般, 研究代表者 (2013-2017)

科学研究費助成事業「ピューリタニズムの寛容思想とその現代的展開」平成29年度 基盤研究 (C) 一般, 研究代表者 (2017-2019)

科学研究費助成事業「ピューリタニズムの寛容論から構築される多文化共生の今日的原理」基盤研究 (C) 一般, 研究代表者 (2020-)

### 講演 (Selected Lectures)

「アメリカにおける人権思想の歴史と今日の人権侵害」於埼玉県教育委員会, 1992年3月7日.

「アメリカ神学の問いかけるもの」日本基督教学会関東支部大会, 於国際基督教大学, 1993年4月2日.

「明治キリスト教と進化論」[異文化交流と近代化・京都国際セミナー], 於同志社大学, 1996年7月23日.

「宗教的多元主義の啓蒙主義的諸前提」日本基督教学会全国大会, 於北星学園大学, 1997年8月30日.

「多元化社会におけるキリスト教大学の公共的使命」キリスト教文化学会, 於東京女子大学, 1998年11月6日.

「リベラリズムの課題としての宗教の寛容と信教の自由」宗教間対話セミナー, 於大正大学, 1999年10月20日.

“Honoring the Plurality among Pluralisms: Different Models of Pluralism for Christian Higher Education in the Context of Globalization,” At

Tunghai University, October 26, 2000.

“Jonathan Edwards in a Multireligious Context,” The Kyoto American Studies Summer Seminar in 2001, Center for American Studies, At Ritsumeikan University, July 27-28, 2001.

“Edwards’ Doctrine of Grace in Broader Contexts,” in “Jonathan Edwards the Theologian: A Conference Celebrating the Three-Hundredth Anniversary of His Birth,” At Princeton, April 12, 2003.

「開放と統合——矛盾を生きるアメリカの社会と教会の課題」於上智大学アメリカ・カナダ研究所，2003年10月14日。

“Theological Reflection on Campus Ministry,” ACUCA Chaplains Seminar on “3 P’s of Chaplaincy: The Chaplain as Pastor, Program Director and Professor in an Age of Specialization,” At Christian University of Thailand, March 19-20, 2004.

「大覚醒とアメリカの宗教伝統」「イギリスとアメリカのピューリタニズム」研究会，於聖学院大学総合研究所，2004年7月14日。

“Understanding the Faith of Other People: Conviviality Among Religions,” “Peace, Security, and Conviviality” COE Conference co-sponsored by International Christian University and Washington State University, At Pullman, September 19, 2004.

「エドワーズの神学的射程」日本基督教学会全国大会，於東京女子大学，2004年10月9日。

“Lex orandi and lex credendi of Asian Christianity: Asia as a Historical Concept,” an organized panel on “Christianity at Crossroads: Seeking Asian Identities from a Theological Perspective,” The 19th World Congress of the International Association for the History of Religions, At Takanawa Prince Hotel, March 25, 2005.

“Restoring Justice, Healing Wounds and Resolving Resentments: A Theological Reflection on the Politics of Reconciliation,” The 21st Century Center of Excellence Program, Joint Research with

Washington State University on “Peace, Security and Conviviality,”  
At International Christian University, March 17-18, 2006.

「不寛容の論理——保守源流の再考」アメリカ学会年次大会シンポジウム「宗教と現代アメリカ社会——保守化の深層」, 於南山大学, 2006年6月10日.

“Is Collective Forgiveness Possible?” Response to Howard Zehr, “Not Retribution But Forgiveness, Restoration and Reconciliation,” Japan Missiological Society, At Nicolas Barre Convent, Yotsuya, July 1, 2006.

「誤れる良心の寛容論」日本基督教学会全国大会, 於上智大学, 2006年9月22日.

「アメリカの宗教史から現代を読む」於日本記者クラブ, 2006年11月6日.  
李正培 (Jeong Bae Lee) 氏 (韓国組織神学会会長)「抵抗的ナショナリズムから文化的ナショナリズムへ——韓日の歴史を癒すためのアジア神学の模索」へのコメント, 日韓神学フォーラム2006「民族主義を越えて」, 於キャンパスプラザ京都, 2006年11月24日.

「ムスリムは大統領になれるか——アメリカ的な政教分離の歴史的理念とその今日的表現」名古屋アメリカ研究夏期セミナー (NASSS 2007) 準備研究, 於南山大学, 2007年2月23日.

“To Forgive is Very, Very Human, not Divine: A Theological Reflection on the Politics of Reconciliation,” “Building New Pathways to Peace: ICU-WSU Conference on Peace, Security and Conviviality,” At Washington State University, April 5, 2007.

“Violence as Impetuosity: Taxonomy of Religious Violence” Nagoya American Studies Summer Seminar 2007, At Nanzan University, July 28, 2007.

“The Forgotten Prophet: Rediscovering Toyohiko Kagawa for Japan and America Today,” The Toyohiko Kagawa Lecture, At Princeton Theological Seminary, October 29, 2007.

「公定教会となったバプテスト——ニューイングランドにおける〈ゼクテ〉の意味」日本基督教学会シンポジウム「宗教改革・ピューリタニズム・バプティズム」, 於関東学院大学, 2008年9月17日.

“The Paradox of Self-Realization and Service to Others,” International Symposium on “Diakonia and NGO in Neo-liberal Age,” At Hanil University, October 9, 2008.

“Asian Theology in the Ablative Case,” Korea-China-Japan Theological Forum 2009: “Religious Challenges in East Asia,” At Doshisha University, June 27, 2009.

“Toward a Theology of Reconciliation: Forgiveness from the Perspective of Comparative Religion,” The Surjit Singh Lecture in Comparative Religious Thought and Culture, At Graduate Theological Union, April 13, 2010.

“The Art of Reconciliation: Or Why Japanese Apologies Sound Artless,” The 44th Annual Meeting of the Japanese Association for American Studies, Workshop B: “Change and Reconciliation,” At Osaka University, June 6, 2010.

“Ablative Theology: Examining Christological Expressions in Context,” Conference on “Suffering and Hope in Jesus Christ: Christological Polarity and Religious Pluralism,” Carl Henry Center, Trinity Evangelical Divinity School and Tokyo Christian University, At Tokyo Christian University, July 21, 2010.

「寛容論の中世的本義と現代的誤解—アメリカ・ピューリタニズムの歴史から」於同志社大学一神教学際研究センター, 2010年10月23日.

“Theology That Breathes Asia: The Lasting Contributions of C. S. Song to the Global Christian Community,” International Theological Consultation, At Chang Jung Christian University, Taiwan, November 16, 2010.

「Harvardism, Yalism, Princetonism をぶっとばせ——反知性主義の伝統

と20世紀リヴァイヴァリズム」アメリカ学会年次大会シンポジウム「反知性主義再考」, 於東京大学, 2011年6月4日.

“After Jonathan Edwards,” “Colloquium on Jonathan Edwards’ Global Legacies” in the “New Directions in Edwards Studies” lecture series, Jonathan Edwards Center, At Trinity Evangelical Divinity School, January 6, 2012.

“Edwardseans in Asia,” “After Edwards: Appropriations of the New England Theology,” American Society of Church History, At The Westin Chicago River North, January 8, 2012.

「ハビット論による実体概念の変革——ジョナサン・エドワーズの哲学と神学」日本イギリス哲学会年次大会記念講演, 於国際基督教大学, 2012年3月28日.

“Lessons and Questions from Past Experience in Interfaith Dialogue,” Rotary World Peace Symposium on Interfaith Dialogue, At Impact Center, May 3, 2012.

“Interreligious Understanding and Peacebuilding as Research Questions,” Duta Wacana Christian University-United Board 2nd Workshop on the Role of Christian Higher Education in Interreligious Peacebuilding, At Yogyakarta, July 17, 2012.

「教育課程の体系化」教育改革 ICT 戦略大会「質保証を目指した教育改革」私立大学情報教育協会, 於アルカディア私学会館, 2012年9月4日.

「国際基督教大学の取り組み」第3回グローバル30産学連携フォーラム「社会のグローバル化と国際人材の育成に向けて」東日本分科会「大学の国際化とグローバル人材育成のための取組について」, 於経団連会館, 2012年9月19日.

「1学部制とメジャー制——ICUのリベラルアーツ改革」IDE セミナー「大学の教育改革と組織編成」, 於仙台ガーデンパレス, 2012年11月19日.



- 「キリスト教本質論再考——アジア神学の視点から」於南山大学宗教文化研究所, 2013年1月11日.
- 「奪格の神学によるアジアのキリスト教史的な再定位」シンポジウム「今日のアジアにおけるインカルチュレーション」基調報告, 於清泉女学院大学, 2013年2月16日.
- 「文化多元主義とキリスト教」山本敏夫記念文学部基金講座, 於慶應義塾大学, 2013年7月8日.
- 「21世紀のリベラルアーツ——発展の土台となる人間性の陶冶」日本産学フォーラム研究会, 於一橋大学一橋講堂, 2014年11月6日.
- 「〈正統〉はどのように作られるか——アジア神学からの問い」シンポジウム「東アジア・キリスト教研究の課題と展望」, 於南山大学宗教文化研究所, 2015年1月31日.
- 「大学知におけるアクティブラーニング」FDシンポジウム基調講演, 於武蔵野大学, 2015年3月11日.
- “From Colony to Province: Liberal Arts Education in a Global Age,” The 49th Annual Meeting of the Japanese Association for American Studies, Symposium 1: “Americanized Education in the Global Age,” At International Christian University, June 6, 2015.
- 「自由・正統・権威——ピューリタニズムの伝統からわれわれが学び得ること」日本ピューリタニズム学会第10回研究大会特別記念講演, 於青山学院大学, 2015年6月20日.
- 「アメリカのキリスト教と反知性主義」 「新しい人間観」研究会, 於PHP研究所, 2015年7月6日.
- 「見える俗と見えない聖——アメリカの政教分離」慶應義塾大学文学部総合講座「聖と俗」, 於慶應義塾大学, 2015年11月10日.
- 「科学とビジネスのためのグローバル・リベラルアーツ」日本工学会「持続可能な科学技術創造立国づくりの要——エンジニアリング・リベラルアーツのすすめ」, 於東京理科大学森戸記念館, 2016年2月15日.
- 「反知性主義——現代日本の問い」日本生産性本部「経営ビジョン構想懇

- 話会」, 於ロイヤルパークホテル, 2016年2月16日.
- 「変わるアメリカ・変わらないアメリカ——反知性主義から見た大統領選挙」於日本記者クラブ, 2016年3月2日.
- 「反知性主義と日本の教養」日本工業倶楽部「木曜講演会」, 2016年3月10日.
- 「反知性主義と日本の教育」日本倶楽部「講演会」, 2016年9月20日.
- 「オバマとトランプ——反知性主義とアメリカの宿命」[夕学五十講], 於慶應丸の内シティキャンパス, 2016年10月27日.
- 「大学生の学びとこれからの教養教育」大学教育学会基調講演, 於千葉大学, 2016年12月3日.
- 「仏米日の政教分離論比較」フィリップ・ポルティエ「フランスにおける国家と宗教——ライシテの軌跡」ディスカッサント, 於日仏会館, 2017年2月27日.
- 「リベラルアーツとは何か」東京工業大学リベラルアーツ研究教育院, 於東京工業大学大岡山キャンパス, 2017年3月6日.
- 「反知性主義のアメリカを日本から読み解く」昭和女子大学「女性教養講座」, 於昭和女子大学人見記念講堂, 2017年5月10日.
- 「社会思想史における宗教」社会思想史学会シンポジウム, 於京都大学, 2017年11月4日.
- 「反知性主義・陰謀論・ポスト真実——宗教史からみたトランプのアメリカ」[グレーター東大塾], 於東京大学伊藤国際学術研究センター, 2018年4月25日.
- 「アメリカにおける宗教と政治の関わり——トランプ政権の宗教的基盤」鹿島平和研究所世界史総点検研究会, 2018年5月22日.
- 「宗教国家アメリカの不思議な論理の真相を探る」[経営文化フォーラム], 於学士会館, 2018年7月9日.
- 「反知性主義と陰謀論——アメリカ宗教史の不思議」日本工業倶楽部「素修会」, 2018年9月11日.
- 「ハーシュマンからチキンマンへ——移動の自由とポピュリズム」松山

大学法学部創立30周年記念シンポジウム「ポピュリズムの時代にどう向き合うか」, 於松山大学カルフルホール, 2018年12月8日.

“The Passions and the Interests: An Edwardsean Understanding of Populism,” Yale & the International Jonathan Edwards Conference, At Yale Divinity School, October 3, 2019.

「誤れる良心の寛容論」宗教倫理学会, Zoom による講演, 2021年3月13日.

「『不寛容論』を書いて分かったこと」初期アメリカ学会, (協賛)日本ピューリタニズム学会, Zoom による講演, 2021年5月29日.

「不寛容論——アメリカが生んだ『共存』の哲学」東京工業大学「研究・イノベーション学会」国際問題分科会, Zoom による講演, 2021年6月22日.

「なぜ寛容論でなく不寛容論なのか？」於日本倶楽部, 2021年7月12日.

### 放送 (Broadcasts)

テレビ出演: BSスカパー! 『ニュースザップ』スカパーJSAT, 2015年7月9日.

テレビ出演: BS日テレ『深層ニュース』, 『『イスラム国』米標的に・米大統領選に大異変』BS日本, 2015年11月20日.

テレビ出演: BSフジ『プライムニュース』, 「米大統領選の行方とアメリカの変化」ビーエスフジ, 2016年3月2日.

ラジオ出演: TOKYO FM 『TIME LINE 今日のニュースと考えるヒント』, 「トランプ旋風に見るアメリカの反知性主義」エフエム東京, 2016年3月3日.

テレビ出演: NIKKEI 映像ニュース「宗教学から読み解く米大統領選の3つの疑問」日本経済新聞, 2016年3月3日.

テレビ出演: BSスカパー! 『ニュースザップ』スカパーJSAT, 2016年8月24日.

テレビ出演: NHK 『視点・論点』, 「アメリカと反知性主義」日本放送協

会，2016年12月5日。

ラジオ出演：TOKYO FM『TIME LINE 今日のニュースと考えるヒント』，  
「トランプ大統領を生んだ，アメリカ伝統のポジティブ思考」エフ  
エム東京，2017年2月16日。

テレビ出演：NHK『ニュースウォッチ9』，「トランプ政権1ヶ月」日本  
放送協会，2017年2月20日。

テレビ出演：BSスカパー！『ニュースザップ』スカパーJSAT，2017年3  
月1日。

テレビ出演：TBS『ジョブチューン』，「初詣・クリスマスの前に知って  
おきたい！——お寺・神社・教会への国民のギモンすべて解決3時  
間スペシャル」TBSテレビ，2017年12月23日。

テレビ出演：NHK『視点・論点』，「富と成功の福音の国アメリカ」日本  
放送協会，2018年2月20日。

テレビ出演：NHK『クローズアップ現代+』，「なぜ起きた？弁護士へ  
の大量懲戒請求」日本放送協会，2018年10月28日。

テレビ出演：NHK BSプレミアム『幻解！超常ファイル ダークサイド・  
ミステリー』，「ジョン・F・ケネディ大統領暗殺」日本放送協会，  
2019年7月11日。

テレビ出演：TBS『サンデーモーニング』，「風をよむ——嫌なら出て行  
けばいい？」TBSテレビ，2019年7月21日。

テレビ出演：ABEMA『ABEMA Prime』，「ニュース ローマ教皇来日」  
Abema TV，2019年11月25日。

テレビ出演：BS-TBS『報道1930』，「解き放たれた陰謀論・源流はアメリ  
カ建国に」BS-TBS，2020年11月23日。

ラジオ出演：NHK ラジオ第一放送『著者からの手紙』，「『不寛容論』を  
書いて」日本放送協会，2021年3月14日。

テレビ出演：NHK BSプレミアム『幻解！超常ファイル ダークサイド・  
ミステリー』，「なぜ人は陰謀論にハマるのか？——イルミナティか  
らQアノンまで250年」日本放送協会，2021年9月2日。

**新聞記事 (Selected Newspaper Articles)**

朝日新聞『私の視点』, 「異文化理解・対話の限界を自覚しよう」2001年4月19日.

日本経済新聞読書欄『今を読み解く』, 「アメリカ史左右する宗教」2010年12月12日.

朝日新聞『オピニオン&フォーラム』, 「1947年の祈り」2016年5月5日.

日本経済新聞『交遊抄』, 「反知性主義」2016年10月6日.

朝日新聞『トランプ氏, 次のカードは…』, 「〈予測不能〉な米次期大統領, 分析イベント相次ぐ」2016年11月21日.

朝日新聞『トランプの文脈(上) ポピュリズム』, 「知性による支配へ反発」2016年12月5日.

読売新聞『米国社会とは』, 「建国時の知恵機能せず」2016年12月5日.

日本経済新聞『今を読み解く』, 「トランプ氏就任と民主主義——内なる脅威と向き合う」2017年1月15日.

日本経済新聞『複眼 Opinion』, 「偽ニュース どう戦う——真実を丁寧に提示せよ」2017年6月20日.

朝日新聞『耕論——バリ協定へ背向けた米』, 「国際的枠組みに反感強く」2017年7月5日.

朝日新聞『クロスレビュー——映画〈ドリーム〉』, 「原題の〈隠された〉の意味は」2017年10月6日.

日本経済新聞『「不識塾」特別シンポジウム 2017』, 「企業人はリベラルアーツで成長していく」2017年11月27日.

日本経済新聞「論理と隠喩に差す政治の影」アデル・ラインハルツ著『ハリウッド映画と聖書』栗原詩子訳(みすず書房, 2018) 書評, 2018年3月24日.

産経新聞『日本の針路 見据えて』, 「多様な評価軸を持って」2019年1月1日.

日本経済新聞「個人最大化する米国の思想」渡辺靖著『リバタリアニズム——アメリカを揺るがす自由至上主義』(中公新書, 2019) 書評,

2019年3月9日.

しんぶん赤旗「聖書は変化し続ける——共同訳聖書 31年ぶり新訳」2019年3月15日.

日本経済新聞『この一冊』, 「多様な宗教が支える寛容性」パトナム他著『アメリカの恩寵——宗教は社会をいかに分かち、結びつけるのか』(柏書房, 2019, 柴内康文訳) 書評, 2019年5月11日.

しんぶん赤旗「ノーベル賞作家 トニ・モリスンを悼む——意識下の『他者化』強く照射」2019年10月7日.

日本経済新聞「『劇薬』手にした国の精神史」ジェニファー・ラトナー＝ローゼンハーゲン著『アメリカのニーチェ——ある偶像をめぐる物語』(法政大学出版局, 2019, 岸正樹訳) 書評, 2019年11月23日.

読売新聞「始まりの1冊(『ジョナサン・エドワーズ研究』1995年)——米に息づく反知性主義」2020年8月16日.

朝日新聞「Qアノン陰謀論 米大統領選に影響?——社会の『正統』揺らぎ台頭」2020年10月30日.

朝日新聞『時代の栞——サンタクローズっているんでしょうか?』, 「世界の善への信頼 見える社説」2020年12月23日.

日本経済新聞『今を読み解く』, 「トランプ後の米国を占う, 分断の行き着く先に懸念」2021年1月16日.

産経新聞『The考』, 「森喜朗氏辞任劇の落とし穴」2021年2月28日.

毎日新聞『特集ワイド』, 「寛容とは——苦手な相手に礼節を」2021年8月11日.

日本経済新聞『半歩遅れの読書術』, 「森有正を読むということ——その声を聞く 深い湖の底で」2021年9月4日, 「預言者R.ニーバーの容赦なき米国批判——歴史を操作する大国の限界」2021年9月11日, 「良書が求める『古典の読み直し』——自律し自由になるために」2021年9月18日, 「M・サンデルの話題作, 実はわたしも——能力主義めぐるもう一つの本」2021年9月25日.

# 日本を代表する神学者

魯 恩碩

森本あんり先生は、日本を代表する神学者である。これはインターネットで「森本あんり」というお名前を検索するだけで誰でも直ぐに分かることである。森本先生と関わる資料が0.45秒の間に約46,600件も現れるのである。森本先生の個人ブログである「神学宗教学研究室の窓」やICU研究者情報データベースを除いても、そのインターネット上の森本先生に関する資料の面々は実に輝かしい。Wikipedia、Amazon、国際基督教大学同窓会：今を輝く同窓生たち、新潮社、日本経済新聞、東洋経済オンラインなど、学界やマスメディア界を問わず、縦横無尽に活躍されてこられた森本先生の人生がインターネット上にも壮大に繰り広げられている。その中でも一番上にあるWikipediaの記事を少し覗いてみよう。「経歴・人物」のところにはこう書いてある。

「神奈川県生まれ。東京都立小石川高等学校を経て、1979年国際基督教大学人文科学科卒。1982年東京神学大学大学院組織神学修士課程修了。1982-86年日本基督教団松山城東教会牧師。1991年プリンストン神学大学院博士課程修了（組織神学）、Ph.D. 1991年国際基督教大学牧師、97年同準教授、2001年教授、2012年同大学学務副学長。

1996年『ジョナサン・エドワーズ研究』（創文社）で第1回アメリカ学会・清水博賞受賞。2002年以降、プリンストン大学、カリフォルニア大学バークレー校で客員教授を務める。小田嶋隆とは小中高の同

級生であり、親しい友人だった。」

ICU卒業後、日本の神学を代表する東京神学大学大学院で修士課程を修了し、その後、アメリカの神学を代表するプリンストン神学大学院で博士号を取得された。これだけでも神学者として第一級のエリートコースを歩まれたことが分かる。そして、1995年には『使徒信条：エキュメニカルなシンボルをめぐる神学黙想』と『ジョナサン・エドワーズ研究：アメリカ・ピューリタニズムの存在論と救済論』という二冊の単著を出版され、その中で『ジョナサン・エドワーズ研究：アメリカ・ピューリタニズムの存在論と救済論』は1996年、第1回アメリカ学会・清水博賞を受賞するほど学界の高い評価を得るのである。その後も森本先生は次々と、学界と社会に斬新な刺激を与える著書を出版される。その一部を挙げてみる。

『現代に語りかけるキリスト教』日本基督教団出版局 1998年

『アジア神学講義——グローバル化するコンテクストの神学』創文社  
2004年

『アメリカ・キリスト教史——理念によって建てられた国の軌跡』新  
教出版 2006年

『キリスト教でたどるアメリカ史』KADOKAWA〈角川ソフィア文庫〉  
2019年 改訂、加筆・修正版

『アメリカ的理念の身体——寛容と良心・政教分離・信教の自由をめ  
ぐる歴史的实验の軌跡』創文社 2012年

『反知性主義——アメリカが生んだ「熱病」の正体』新潮社〈新潮選  
書〉2015年

『宗教国家アメリカのふしぎな論理』NHK出版〈NHK出版新書〉  
2017年

『異端の時代——正統のかたちを求めて』岩波書店〈岩波新書〉2018  
年



『不寛容論——アメリカが生んだ「共存」の哲学』新潮社〈新潮選書〉  
2020年

上記の中で特に『反知性主義——アメリカが生んだ「熱病」の正体』は空前の大ベストセラーとなり、日本社会に「反知性主義」の熱風を引き起こした。この本は韓国語にも翻訳され、森本あんり先生は韓国でもかなり有名な著者なのである。森本先生の神学はいつも社会問題を鋭く紐解く時事性と組み合わされているため、国境を越えて多くの人々の心を引きつける力を持っている。個人的にそれが森本神学の強みの一つであると思う。

そして、森本先生はICUのためにも多大な貢献をされてきた。下記がその貢献の痕跡の一部である。

1991年～2002年 大学牧師・同大学教会牧師  
1992年～2001年 宗務部長  
2005年～2012年 キリスト教と文化研究所所長  
2008年～2009年 哲学・宗教学デパートメント長  
2011年～2012年 アメリカ研究メジャーコーディネーター  
2011年～2012年 ロータリー平和センター長  
2012年～2020年 湯浅八郎記念館長  
2012年～2020年 学務副学長

上記のご経歴が示す通りに、森本先生はICCの所長を7年にわたってお務め下さり、所長としての在任中には所員の原稿を集めて『人間に固有なものとは何か——人文科学をめぐる連続講演』という立派な書物をご出版された。森本先生はICCにとっても欠かせない存在であったのである。

実は、私個人にとっても森本先生は忘れられない恩人の一人である。それは、森本先生が14年前にニューヨークに住んでいた私をICUの教員候補としてインタビューするために、わざわざアメリカまで来てくださっ

たからである。森本先生との出会いがあったからこそ、私はICUに教員として着任し、尊い使命と職を得たのである。今でもそのことを感謝する。森本先生は着任したばかりの私に、優しく、時には厳しくご助言下さった。それは森本先生が私に高い期待と信頼を寄せて下さったからである。その期待と信頼があったからこそ、それを糧に私のような微力で浅才な者でも何とか少しずつ成長し、一人前の教員として働くことができた。このように大変お世話になった森本先生であるが、森本先生と私の関係はこの14年間、山あり、谷ありであった。それはもちろん、私の未熟さに起因する部分が多いので、いつも森本先生に申し訳ない気持ちでいっぱいである。しかしながら、私の本音では森本先生に対する尊敬の念は一度も消えることがなかった。私にとって森本先生は「兄貴」のような存在である。「先生」というには少し年齢の差が近すぎるし、ただの「先輩」というには私の森本先生に対する尊敬の念が強すぎる。これからICUを退任し、新しい人生の道に旅立つ森本先生にどうかこの言葉を伝えたい。

「兄貴、大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。色々と失望させて本当にすみません。でも、いつも兄貴をすごいと思っているし、心から尊敬しています！」

国際基督教大学での教育・研究に一区切りをつけ、新しい人生の道を歩まれる森本先生のために幸せを祈りながら、深い感謝の気持ちを、尊敬の念と共に捧げる。